



〈青年部〉  
遠山大樹副会長

Conversation

# 過去と今をつなぎ 業界の将来のため 種まきを行うのが 青年部の役割

業界の未来を担う若い世代で構成される「青年部」から、会長および副会長2名にご参加いただき、業界の魅力や抱える課題、そしてあるべき将来の姿について語り合う座談会を開催しました。

まずはこの業界、このお仕事に就いた理由やきっかけを教えてください。

**東久保副会長** 私が10歳の時に、創業者の祖父が若くして亡くなりまして、祖母が会社を継ぎました。そして2016年に母が代表取締役役に就任し、2代続けて女性社長が続くことになりました。ただ、当時この業界は圧倒的に男性経営者が多かったという中で、実務の面ではなかなかうまくいかない部分も少なからずあったようです。私は社会人になってから2年間は別の仕事をしていましたが、家業を手伝いたいという思いが強くなり、入社を決意しました。

**富田会長** 弊社は祖父が創業してから60年以上が経ちます。家業として続いており、資源循環業以外にもさまざまな事業を展開していることもあり、私自身はあまり予備知識なく入社しました。入社後すぐに青年部に入りましたので、業界の多くのことを青年部から学ぶことができました。

**遠山副会長** この業界に興味を持ったきっかけは、大学の卒業論文でした。テーマは、2000年問題と絡めて、コンビニの廃棄物処分をマイクロ経済学の視点からどう解決するか？というものでした。調べていく中で、高度経済成長期には産業廃棄物が公害の原因のひとつになっていたのに、今後は資源循環に移行していくという廃棄物の歴史に触れました。そうした背景を知るうちに、これからの時代は廃棄物が面白いと感じるようになりました。最初は一般廃棄物の自治体施設で働いていました。そこで12年働いていたのですが、役所なので異動がありまったく別の部署に行くことになったんです。そのタイミングで、「自分でやってみよう」と思うようになり、産業廃棄物の収集運搬業を立ち上げました。現在で13年目になります。

この業界に入ってみて感じたことを教えてください。

**遠山副会長** 当社は収集運搬業を行っているのですが、処分業の方とのパイプがなければ、廃棄物を持ち込む先がないということで、最初は色々な処分場に足を運んで挨拶にお邪魔するのですが、皆さんすごく警戒されていて、閉鎖的な業界なんだなと感じたのを覚えています。でも、愛産協に所属してつながりができてからは皆さん心を開いてくださったので、青年部の活動に参加して本当に良かったと思っています。



〈青年部〉  
富田康祐会長

〈青年部〉  
東久保翔平副会長

日 時 令和7年5月30日(金) 13:00 ~  
場 所 愛知県産業資源循環協会 3階会議室  
出席者 3名

**富田会長** 事業としてはもちろんですが、この業界は横のつながりや連携がないと成り立たず、資源循環が完結しないと強く感じました。

この業界のやりがいや魅力について教えてください。

**遠山副会長** この業界で仕事をしているだけで、資源循環や再生可能エネルギーと非常に近い位置にいられますし、SDGsにもダイレクトに関わることができる、それがこの仕事の大きな魅力だと思います。社会貢献につながる仕事だと考えられる方であれば、自ずとやりがいは感じられると思いますね。



**富田会長** 排出者は廃棄物と思っているものが、適正処理をすることによって再生利用可能な資源になることがあります。そうした中で持続可能な社会作りにも貢献できるということ自体が、大きなやりがいだと思います。

逆に課題や改善した方がよい点などはありますか？

**存在価値を多くの人に知ってもらい  
業界の社会的地位向上につなげていく**

**東久保副会長** 以前はITのベンチャー企業に勤めていたこともあって、この業界はまだDX化が遅れていると感じています。紙媒体での運用も多く、例えば搬入の予約をする際もいまだにFAXでの申し込みを行うことが多いですし、ドライバーとの連絡などに関してもだれでも無料で使えるLINE公式アカウントやSlack、LINE WORKSなど便利なツールもたくさんありますので、もっとデジタルを利用した方がよいと思っています。また、現場の人の感覚や経験に任せっきりという印象が強いので、動作解析や分析、またAIなどの技術をもっと取り入れて業務効率を上げることができるはずだと思っています。

**富田会長** まだまだ世間からの業界自体のイメージがあまり良くないと感じる場合があります。不法投棄や処分場

で火災など、ニュースで取り上げられるのは、どうしてもネガティブなことばかりなので、業界全体に良くない印象を持たれてしまっていると思います。努力はしていますが、まだまだ一般の方々には伝わっていませんし、業種も現在はサービス業に分類されています。業界として、近い未来には産業廃棄物処理業や資源循環業といった形で業種名を変更できるように働きかけていますので、ひとつの独立した業種として広く認知してもらうために青年部としても取り組んでいく必要があると思っています。



**東久保副会長** 価値のある産業にも関わらず、カテゴリーとしてはその他サービス業に属しているので、ひとつの大項目の分類となるよう働きかけていかないといけないです。また、経済活動は、天然資源を加工して製品などを生産する動脈産業、これに対して動脈産業によって生み出され、消費されたあとに廃棄物となったものを回収し、再加工・再販売して再び社会に流通させる役割を担っているのが私たちのような静脈産業になります。経済活動にはこのふたつが必要不可欠なので、動静脈連携をさらに深め、動脈産業とも積極的に関わり合いを持っていくことが重要だと感じています。そして、私たち静脈産業の存在意義をもっと多くの方に理解してもらうために発信していく必要があると思っています。

**遠山副会長** 環境への意識は年々高まってはいますが、私たちの仕事がサーキュラーエコノミー実現のために必要だと理解していただいている一般消費者の方はまだまだ少ないです。目に見えない、あるいは見えにくい部分が多いと思いますので、しっかり可視化して伝えていくこと大事ですね。

**東久保副会長** また、私たちの業界は「許可業」であるため、自治体によって法令の解釈や手続きの進め方に若干の違いが見られることがあります。たとえば、許可証に記載される処分方法の名称が自治体ごとに異なっていたり、許可取得の要件に差があったりする場合があります。そのため、現場の実態をよくご理解いただいたうえで、法令が適切に運用されることが重要だと考えています。こうした背景からも、行政との定期的な意見交換会を通じて情報共有を行い、互いに理

解を深めながら連携を強めていくことが、非常に重要であると認識しています。

青年部に所属していて良かったと思えることを教えてください。

**遠山副会長** 青年部に所属することで、確かにやることは多少増えますが、それ以上にメリットの方が大きいと感じています。人脈が広がることで受けられる仕事が増えるのはもちろんですが、生涯にわたって付き合える同業者の仲間ができるというのは、とても心強いことですね。

**東久保副会長** 大人になると、なかなか新しい友達や仲間ができないと思いますが、同じ業界で働く者同士という共通点があるからこそ、垣根を超えて深い絆を作ることができると思います。

**富田会長** 同じような課題や問題を抱えていることが多いので、世代や感覚も近く、相談しやすいですし青年部での情報交換して得た知見を自分の会社に持ち帰って活かすこともできています。この業界の未来を真剣に考えているメンバーが多いので、時にはヒートアップすることもあります。そうした熱量や活力こそが青年部の大きな魅力だと思います。

これからどのように業界を盛り上げていきたいですか？

**東久保副会長** ようやく国として国家戦略の柱として資源循環型の社会づくりを進めていく流れができつつある中、私たちも一緒になってカーボンニュートラルの実現のために色々な取り組みを進めていく必要があります。そうした中で、青年部としても何ができるかを皆で話し合っただけで行動していくことが、業界全体の発展に繋がっていくと思っています。

**富田会長** まずは、業界全体としてクリーンなイメージを伝えていきたいです。一般の方々が抱えているイメージ以上に私たちは、資源循環に真摯に取り組んでいます。資源循環業で働いている、と自信を持って言える社会を作っていきたいです。

**遠山副会長** それぞれの会社が利益を上げて、さらに成長することが、業界全体の活性化につながっていくのだと思います。意識や情報の共有はもちろん大切ですが、業界の皆さんと同じ方向を見ながら進むことが、これからますます大事になってくると思っています。

最後に、青年部として取り組んでいること、これからカタチにしていきたい事など教えてください。

## 業界の将来のために種まきを行うのが青年部の役割

**遠山副会長** 業界にいる若い世代が、若いうちから横のつながりを持ち、関係性を深めていくことが、業界の将来や愛知県の経済活動にとっても必要不可欠だと思っています。「新しいことに挑戦したい」「何かを変えていかなければならない」という感覚は常に持っていますが、なかなか実現できていないこともあります。だからこそ、できない理由を探すのではなく、今できることを見つけてカタチにしていくという姿勢が大切だと思っています。10月13日には、鶴舞公園にて今年も青年部主催の「スポGOMI」を開催します。今回は一般の方にも参加していただけるようにしており、青年部のことを知ってもらうきっかけになるような機会にしたいと考えています。また、愛産協に所属する企業にも関心を持っていただき、業界の理解が少しでも広がればと思っています。私たちの業界の地位を高めていくためにも、まずは“知ってもらう”ということが、何よりも大事だと考えています。

**東久保副会長** 当協会では初となる「環境出前講座」を、9月に北名古屋市の小学4年生を対象に実施することになりました。他県で実施しているのを参考に、「面白くて全く新しい授業にしたいよね」という思いで、様々な意見交換を重ねながら教材も何とか形にすることができました。今回の授



「環境出前講座」の様子

業を皮切りに、今後も継続的に実施していきたいと考えています。産業廃棄物のことを知ってもらうという目的はもちろん、将来の産業資源循環業界の担い手を育成していくことにつながっていくとも思っています。私自身、親がこの仕事をしていると人に言いにくいという時代があつて、今でもそれは多少なりとも残っていると思います。良くないイメージを払拭するためにも、私たち自身で子どもたちに、日本の未来のためになる、とても素晴らしい業界だということを直接伝えたいです。この取り組みがひとつの実績として形になれば、今後ほかの学校でも続けていけるよう広げていきたいと考えています。



ラオス視察の様子

**富田会長** 今年、青年部でラオスへ視察研修に行きました。個人的に入社当時は、先進国の様子を見てみたいと思っていましたが、「60年前の日本の様子が見られる」というお話を聞き、確かにそれは資料だけでは確認できない、現地に行っこそ体感できることだと感じ、ラオスの廃棄物事情を見てきました。日本がこの60年の間にどのようなプロセスを経て、今の姿に至ったのか。この進み方は最善だったのか？改めてその流れを現地の状況と照らし合わせながら振り返り、考え直すきっかけにもなりました。私たちは、これからも長く業界に関わっていく若い世代です。だからこそ過去と今、そして未来へつなぐ役割を担っていると思います。業界の魅力を発信し続けながら、資源循環にしっかり向き合い、持続可能な社会の実現に貢献していくこと。それが、今の私たちに課せられた大切な使命だと思っています。



(株) 富田商店  
ディレクター  
富田康祐

(株) 環境むかい  
代表取締役  
遠山大樹

(有) 愛知環境センター  
代表取締役  
東久保翔平

